

TOPIC

## 「希望」の光が照らし出す本県の復興への思いを キャンドルに託して

令和5年3月11日(土)、福島県主催の令和4年度『3.11ふくしま追悼復興祈念行事「キャンドルナイト」』の連携企画として、本学保健科学部の教員・学生ら約100名が福島駅前キャンパスにて、東日本大震災で犠牲になられた方々へ哀悼の誠を捧げるため、エントランスホールに復興への思いを綴ったパネルを展示したほか、700個のLEDキャンドルを用いて「希望」の文字を描きました。

制作に参加した診療放射線科学科2年の武田爽汰さんは「歩行者に見やすく文字を伝えられるよう、角度や距離を計算して並べ方を工夫した。イベントを通じて震災を後世に伝えていきたい」と述べました。



また、本行事を主導した教員のひとりである診療放射線科学科山品博子講師は「放射線を取り扱う医療人として、福島

で学び・生活する人として、この3.11という日をこれからも大事にしていきたい」と思いを込めました。

TOPIC

## 子どもから高齢者まで。 県民の皆様の健康増進に寄与する保健科学部の取組み

令和5年3月21日(火)、本学保健科学部研究グループは、子どもの健康増進に向けた「子どもの身体と心の健康を支援する眠育・食育・足育調査」を福島駅前キャンパスで実施しました。

睡眠、食習慣、足の発達といった多角的な視点から子どもたちの成長過程を複数年にわたって調査し、将来の生活習慣病などにつながる健康リスクを洗い出すことを目的としています。小中学生を対象とした大規模調査は、全国でも例を見ない取り組みとなります。

当日は、福島市内の小中学生約65名が参加し調査後には、本学教員が日常生活での改善点やアドバイスなど簡単なフィードバックを行いました。

続いて、3月28日(火)には、保健科学部介護予防研究チームの監修のもと、福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ主催「高齢者のための体力測定会」が同施設内で開催されました。

65歳以上の福島市民約40名が参加し、筋力や口周りの健康状態、歩行能力など6項目について測定し、フレイル(虚弱)の恐れなどを判定しました。

測定後の分析結果について、本学教員による説明に加えて、体力の衰えに対する日常生活での対策についての紹介も行いました。

今後も様々な研究を通して、地域に根差した大学として、県民の皆様の健康増進に役立つ取組みを行ってまいります。

### 「眠育・食育・足育調査」の様子



### 「高齢者のための体力測定会」の様子



## 医学部同窓会より、卒業生3名に令和4年度「光が丘賞」を贈呈

毎年度末に医学部同窓会より贈られる卒業時表彰「光が丘賞」の表彰式が、令和5年3月24日(金)に講堂にて開催されました。

「光が丘賞」は、学業識見に優れた者、スポーツ、芸術及び課外活動で特筆すべき成果を挙げた卒業生を褒賞することを目的として

おり、将来本学の発展に寄与することが期待されると認められた学生に贈られるものです。

令和4年度は、成績優秀者として赤沼桃さん、土屋菜月さん、森岡誠史さんの3名が選ばれました。このうち赤沼さんには卓越して優秀な成績を取めたとして後藤新平



奨励賞も贈られました。

赤沼さんは「生まれ育った福島の医療に貢献したい」、森岡さんは「どんな状況でも対応できる医師になりたい」、土屋さんは「福島に戻ってくることも視野に大学での学びを生かす」とそれぞれ今後の抱負を述べました。

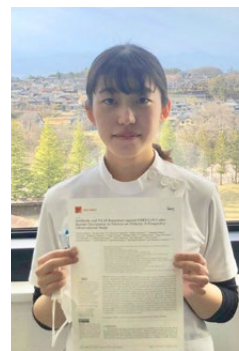
### 本学学生ら研究チームの論文が国際医学誌に掲載

医学部6年の川島萌さんらの研究チームは、新型コロナウイルスワクチンの3回目接種が透析患者の感染予防に有効との論文をまとめ、その論文がスイスの医学誌「Vaccines」に掲載されました。

研究チームは、昨年3月頃に相馬市の相馬中央病院の透析患者58人を対象に採血検査を実施し、ワクチン接種後の免疫の状態を分析

しました。そして、ウイルスを排除する抗体や中和活性、重症化を防ぐ細胞性免疫の値を調べ、ほぼ全員が3回目接種後に免疫を獲得していることが分かりました。

研究を主導した放射線健康管理学講座坪倉正治主任教授は「透析患者に対するワクチンの追加接種の必要性を議論する上で貴重な資料になる」と述べました。



## INTERNATIONAL EXCHANGE

### 3年ぶりの海外派遣学生出発式を挙行

国際交流センターは、2023年度に海外協定校へ短期留学する学生を激励することを目的として、2023年3月29日(水)に海外派遣学生出発式を挙行了しました。

本事業は国際学術交流事業の一環として実施していますが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による出入国規制で2020年度

から派遣中止を余儀なくされてきました。

2023年度は3年ぶりに、マウントサイナイ医科大学(アメリカ)及び国立シンガポール大学(シンガポール)に医学部新4年生をそれぞれ2名ずつ、計4名派遣します。

留学期間は、マウントサイナイ医科大学では2023年4月1日から5月14日まで、国立シンガ



ポール大学では2023年4月15日から5月13日までです。交流の成果が大いに期待されています。

### ジャック・ロシャル博士(ICRP 前副委員長)らが本学を表敬訪問

2023年3月15日(水)、国際放射線防護委員会(ICRP)の前副委員長で現在長崎大学客員教授であるジャック・ロシャル博士と、フランス放射線防護・原子力安全研究所(IRSN)のジャンフランソワ・ルコンブ博士が、本学が有する被ばく医療科学分野に関する意見交換と、今後のIRSNならびにICRPとの協力関係強化のために、竹之下誠一理事長兼学長を表敬訪問し、挟間章博副理事長が陪席いたしました。

F-REIへの本学の参画は、第4分野だけでなく、前例のない複合災害を経験した世界唯一の医科大学として、自然災害と原子力災害への対応とそのモデル化を目指した研究や教育を続けてきた知見が、第5分野へも役立つものと考えられます。



### フランス・アッシュクロフト英国オックスフォード大学教授が来学

2023年3月6日(月)、糖尿病研究の世界的権威であるフランス・アッシュクロフト英国オックスフォード大学教授(以下、アッシュクロフト教授)が来学し、竹之下誠一理事長兼学長と懇談しました。病態制御薬理医学講座下村健寿主任教授がアッシュクロフト教授のもとで8年にわたり研究活動を行っていたことから、日本でも研究に関する協力関係を深めることを目的に、アッシュクロフト教授は昨年10月から同講座の特任教授も務めています。

アッシュクロフト教授は「世界中の人々を脅かしている2型糖尿病の治療法を研究したい。福島にも多くの糖尿病患者がいる。福島医大との協力関係を継続しながら、研究を続けていく」と本学との協力関係の継続に意欲を示しました。

